

# 豊庄だより



第 721 号 2022 年 8 月 29 日

福岡市早良区南庄 2-26-13  
社会福祉法人林生会豊庄保育園  
園長 西尾 達

コロナ禍 3 年目の夏。月遅れの盆が終わり 1 週間余、保育園に少しずつ子どもたちの元気な声に戻ってきました。このままの状況が続いてくれたらと思っています…と、ここまでを 8 月 24 日に書いていましたが、コロナ禍が



8 月 19 日

やってきました。対象となったみなさんには、登園の自粛お願いを電話連絡しましたが、25日は職員(11人)を含め多くの方が登園自粛となりました。26日に予定していた8月誕生会も、29日(月)に延期せざるを得なくなりました(26日は、延期になっていた7月の誕生会も行う予定でした)。29日も、感染が拡大すれば、変更しなければならず…。このようにコロナ禍の中では、先の見通しをたてることができません。

「ウイズ・コロナ」という口当たりの良いキャッチフレーズで、人の移動を制限せず経済活動を優先させるのが現在の政府の方針のようです。しかし、感染力はこれまでにないくらい強く、感染者数は高止まりが続いています。また、29日からは市内の小中学校の夏休みが明け、子どもたちの活動範囲が広がると、感染のさらなる拡大につながるのでは心配しています。そして、そのしわ寄せは保育園に來ます。新型コロナウイルスの拡大が、保育園の活動に大きな打撃を与えることは、7月25

日前後から始まった豊庄保育園におけるコロナ禍で痛いほど経験しました。あの時から 1 ヶ月が経ちました。今、月 1 回の誕生会の日程調整がコロナ禍の中で混乱しています。何とかして乗り切らねばと思っていますが、この先の行事のことで頭を痛めています。それは運動会です。10月1日と少し先のことですが、練習の日程から逆算しても、タイムリミットが近づいています。「運動会をどのような形だったらできるのか? いや、はたしてできるのか? その条件は?」など、盆明け頃から職員で話し合いを重ねました。

後日配布予定のプログラムは、昨年度とそれほど変わるものではありません。異なるのは、コロナウィルスの感染者や濃厚接触者が出た場合、開催をどうするかという点です。想定できるケースを出し合い、26日の職員会議で結論を出す予定でしたが、その会議がコロナ禍のため開催できず、9月9日以降にならないと、みなさんにはお知らせすることができなくなりました。

さて、10月1日ごろがどういう状態になっているかはわかりませんが、もし、運動会当日の10月1日に感染が分かった時はどうするか。このころ、PCRの検査体制が現状と変わらなければ、症状が出ていて病院に行っても検査ができなかったり、検査が遅れたりすることもあるでしょう。活動制限をこのまま緩和する方針を進めるのであれば、検査体制をもっと充実させるべきですが、これは3年前から言われてきたことです。



8 月 22 日

夏の甲子園で優勝した仙台育英高校の監督が「青春ってすごく密なので。そういうことは全部ダメだ、ダメだと言われて…。でも本当にあきらめないでやってくれた」と、インタビューに答えていました。保育園はもっと密な世界です。いろいろな行事に制限をかけなければならない事態に苦悶しています。